

熊本県立上天草高等学校 平成28年度学校評価表

1 学校教育目標
「くまもとの教職員像」、「平成28年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「平成28年度体育保健課取組の方向」、「平成28年度人権教育取組の方向」を中心に据え、生徒一人ひとりの個性を伸ばしながら、智・徳・体の調和がとれ、基礎基本の力を身につけ(人間力)、思いやりの心(恕)を待ち、自ら実行しやり抜く(自律)生徒の育成をめざす。

2 本年度の重点目標
1 学級経営 2 部活動経営 3 教科・学科経営 4 学習指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・授業第一主義(生徒の実態に応じたきめ細やかな授業展開) ・研究授業の積極的実践(相互授業参観等の実施) ・自学自習の習慣化及び読書指導(朝読書の充実)による基礎学力の定着 5 生徒指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・マナーの徹底(正しい制服着用・頭髮、元気な明るい挨拶、正しい言葉遣い) ・部活動の活性化(部活動加入率アップ、計画的・継続的指導の充実) ・生徒会活動の活性化(自主・積極的活動の推進) 6 進路指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・進路情報の提供及び面接及びガイダンス指導の充実 ・進学・就職説明資料提供並びに外部講師等による講演会や各種説明会等の機会拡充 ・インターンシップ、ボランティア活動等の体験活動への積極的参加 7 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・環境教育・安全教育の充実 ・校内職員研修会等の充実 ・学校評価の実施とその活用の充実 ・人権教育の視点に立った特別支援教育・適応指導の充実(組織的・継続的指導) ・体育大会、文化祭、上天草バザール等の学校行事の充実(地域や育友会との連携) ・広報活動の充実(HPの更新・広報誌・学校説明会等による情報発信の充実)

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果(●)と課題(▲)
大項目	小項目					
学校経営	人間力、恕、自律の育成	◇確かな学力の育成に基づくキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ○授業第一主義・分かる授業の実践 ○各部会・学年会・教科会による多方面からの学力充実 ○自学自習の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の習熟に応じたきめ細かな授業展開 ・ICT等の機器を活用した授業の実践。 ・部会・学年会・教科会の定例実施と連携。 ・適切な予習・復習指導 ・課題の計画的配布。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の状況に応じて習熟度別授業を行い、少人数指導を実施できた。また、ICT機器の活用や言語活動を取り入れた授業も活発になり、授業の理解度が深まる工夫が見られた。 ▲各教科で週末や長期休業中に課題を出してあるが、提出状況が良くない生徒がいる。
		◇主体的に学び、学び合う人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動への加入者の増加と充実(加入率75%) ○ボランティア活動の充実(地域における月1回以上のボランティア活動と、ボランティア活動参加者60%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で部活動加入を推奨する。 ・部活動の計画的・継続的指導の充実 ・部活動単位での地域ボランティア活動の実施。 ・ボランティア活動参加への積極的呼びかけ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●各部活動において、計画的・継続的に活動ができていた。また、ボランティア活動においても積極的に参加し、地域に貢献できた。 ▲部活動加入率が69%と低下し、来年度の課題となった。生徒数も減少しているので部活動の充実を図りたい。
	学び合い高め合い支え合う職員集団	<ul style="list-style-type: none"> ◇資質向上 ◇職員研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○専門性・教科指導力の向上 ○研究授業の積極的実践 ○職員研修の計画的実施と内容の充実。(各定期考査期間に1回以上、長期休業中に2回以上実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外研修会への積極的参加。 ・研究授業の積極的実践。 ・定期考査中、長期休業中を活用し、計画的に職員研修を実施する。 ・研修内容を精選し喫緊なものとし継続的に必要な研修を実施し、職員の資質向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●熊本市内や教育センターへの研修参加が増えた。また、研究授業も計画的に実施でき、教員相互の情報交換もできた。 ●職員研修は多様なテーマで研修できた。特に生徒理解や人権教育、交通関係の研修は充実していたと感じる。 ▲研究授業や公開授業への校外の方の参加推進を図りたい。
	保護者や地域との連携・協力	◇育友会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○総会や学校行事等への参加者を増やすとともに、育友会活動を活性化させる。(育友会総会出席率85%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会総会をはじめ、学校行事への参加促進。 ・育友会新聞作成・校外補導等への協力。 ・地域行事への育友会の参加促進。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●熊本地震直後の育友会総会であったが、出席者集会を含めて出席率80%に達した。 ●これまで60%程度であった育友会役員会の出席率が80%以上に向上した。 ▲天草地区研究大会や視察研修などの行事の参加者が少なく参加者を増やす工夫が必要。
授業の充実、分かる授業	◇研究授業、授業公開	◇地域や小中学校との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○地域への情報提供と小中学校との交流に努め、本校教育への理解と協力を得る。(保護者アンケートによる肯定的評価80%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校との交流(出前授業・合同部活動等)を実施。 ・ホームページの充実。 ・地域連携対策(魅力創造発信事業)の実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●中北小・姫戸小への学習支援に参加した。また、近隣の中学校とも文化祭等で吹奏楽の合同演奏をした。バスケットボールは合同練習を実施した。 ▲ホームページは行事の更新はされているが、もっと全体の充実を図りたい。
		◇指導力の向上 ◇授業評価と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業の分析や授業公開におけるアンケートを通じて、指導力向上を目指す。 ○生徒による授業評価の結果分析等により、生徒の学習意欲を高める授業の実施を目指す。(生徒アンケートにおける肯定的評価70%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間、研究授業の積極的な活用(各教科年1回以上の研究授業と反省会の実施) ・生徒による授業評価 ・個別指導等による生徒に実態の把握 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●今年も1、2学期に計画し、予定通り実施できた。先生方の見学も多く、授業の工夫や改善に繋がったと考える。 ●先生方の指導において、生徒に対する熱意や工夫を感じる回答が多く、先生方の授業に対する前向きな指導が感じられた。 ▲生徒自身が授業に対して意欲的に取り組む工夫をさらに充実させ、自ら進んで学ぶ姿勢を身に付けさせる。

学力向上	基礎学力と学習習慣	◇家庭学習時間の増加	○家庭学習の習慣化を図り、併せて家庭学習時間の増加を目指す。(1日の平均学習時間60分以上)	・宅通時間調査による生徒の実態把握 ・集会等での結果の周知と啓発	C	●始業式、終業式で宅習時間調査の結果を示し、休暇中や次学期の目標を示せた。 ▲クラスによって差が大きく、学年、担任で工夫を考える必要がある。 ●定期的に広報活動を行ったが、イベントを行ったりしたことで、僅かではあるが生徒一人あたりの貸出冊数の増加(0.5冊)につながった。 ●文化祭の点字本作成など、他校(盲学校)との交流につながる取組を行うことができた。 ▲予算の大幅な減少により、リクエストに応えることができなかった。今まで以上に購入図書の見直しを行う必要がある。 ▲職員組合が定例研修で「部活動と部活動」
	読書習慣の育成を通して、豊かな教養と人間性の涵養に努める。	◇図書館を活用した人材育成 ◇情報リテラシーの向上	○図書館利用者数を増やす。(1日の平均来館者数20名以上) ○朝読書の徹底 ○授業における図書館の活用(各授業で積極的に図書館を利用する。)	・積極的に広報活動を行う。(図書便り、文化祭、図書館祭り) ・毎月図書館便りを発行する。 ・生徒のリクエスト等による新刊の積極的入荷を図る。 ・教科の学習内容と連携するなど、展示を工夫する。	B	
キャリア教育(進路指導)	系統的キャリア教育	◇進路検討会の実施	○生徒一人一人の希望や適性にあった職業検討を行う。 ○生徒のニーズにあった大学等進学先の検討を行う。 ○3年生全員の進路目標決定を目指す。	・企業見学、進路別講演会、マナーアップ講座、スキルアップ講座等の実施 ・オープンキャンパスへの参加や大学出張講座の実施	A	●進路出張講座(企業十上級学校)から企業見学、就職ガイダンスの流れが機能し、生徒の意識向上につながることができた。 ●3年次の企業見学、模擬面接会などで生徒の資質向上が見られた。
		◇3年間の系統的指導	○模擬試験等を活用した継続的指導を行う。 ○生徒の状況を把握 ○課外授業の工夫や面談を実施	・コース別・習熟度別課外を実施 ・担任が家庭訪問・個人面談実施 ・学習習慣や学力定着を把握するための模擬試験の実施	A	●模擬試験をその後の学習指導につなげ、学力の安定的な向上が見られた。 ●課外授業を系統的に実施し、入学時偏差値から大幅な改善が見られ、高い進路目標実現につながっている。
	進路意識の向上	◇学年に応じた進路指導 ◇面談による指導	○模試のデータや進路検討会を活用し、3年間を見通した進路指導を行う。 ○研修会を実施し、進路指導の実践力を向上させる。	・各学年で進路検討会 ・模試データを全職員で共有 ・キャリアサポーターによる個人面談の実施(就職希望者は2回以上行う。)	B B	●データを活用して短期の目標を立て、具体的な指導に生かした。 ▲対象教科の担当者中心の会を実施した。 ●ガイダンスなどの取組と連動させて、面談を実施できた。面談結果を基に早期に生徒の希望を把握し、視野を広げることができた。
生徒指導	生徒の規範意識	◇基本的な生活習慣の確立と社会人の基礎となる整容指導	○8回の服装・頭髪検査中、1回でも不合格者を0にする。	・事前告知と、整備の促進 ・社会人となる前に身につけるべき資質を理解させる。	B	●事前告知をすることで規範意識を高め不合格者を減少することができた。 ▲不合格者0にできなかったこと、一部の生徒の校則や教育方針の理解度の低さが今後の課題である。
		◇各種法令・法規に基づいた指導の徹底	○特別指導、いじめ、交通事故・違反、貴重品の盗難等の件数を前年度より減らす。	・法令順守の重要性と違反等が何故いけないかを集会時等で繰り返し諭す。	B	●交通事故・違反・盗難については規範意識の向上が図れた。 ▲特別指導の件数が昨年度よりも増加傾向、また、今年度いじめを1件認知したこともあり、今後に向け問題行動の抑止といじめ防止の対策に努めていきたい。
	生徒会活動の充実	◇自主的・積極的な執行部の活動	○生徒会主催行事等において生徒が主体的に計画・運営・進行を行う。	・計画的な準備と準備作業時の教師側の積極的な関わり。	B	●生徒会の活性化が図れ、体育大会や文化祭など生徒会を中心とした行事も充実した。
人権教育の推進	同和問題を中心とした様々な人権問題の理解	◇同和問題学習LHR ◇様々な人権問題学習 ◇差別を見抜き、差別を許さない人間の育成	○各学年単位で同和問題に関する認識を深める ○学年ごとに、「水俣病をめぐる人権」、「ハンセン病回復者の人権」について理解を深める。 ○生徒アンケートで肯定的評価80%以上を目指す。	・LHR指導案について人権教育推進委員会でも内容を検討し、各学年単位で学習指導案を作成する。 ・熊本県教育委員会作成の人権教育推進資料や県の事業、自治体作成資料を利用する。 ・人権教育推進委員会が研修計画	A	●人権LHRなど予定通りに実施することができた。特に人権LHRでは学年の先生方の御協力のもと、充実したLHRを実施することができた。 ▲「ハンセン病回復者の人権」について、十分に時間を確保することができず、十分な成果を上げることができなかった。
	職員の人権感覚の醸成	◇職員研修を通して知識を理解するとともに人権感覚を養う。	○身近に起こっている人権問題についての研修を実施する。 ○校外研修へ積極的に参加する。	・同和問題を中心に据えた職員研修の実施 ・校外研修への積極的参加を促す。 ・熊本県教育委員会作成の人権教育推進資料の積極活用	B	●職員研修など年度当初の予定通りに行うことができた。 ▲校外研修への参加呼びかけを十分に行うことができず、参加者を増やすことができなかった。
	命を大切にすることをはぐくむ指導	◇自他の生命を尊び、大切にしていこうとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学ぶとともに、夢や目標をもち、その実現に向けて努力する態度の育成。	○すべての教員が学習活動とおし「命を大切にすることを」を育む指導を行う。 ○行事等に、生徒が自尊感情を高め、自己実現を図るための在り方、生き方について学ぶ視点を入れる。 ○講話をとおして命の尊さ、大切さを学ぶ。	・教科指導において関連する学習内容を確認し、年間を通じた指導を行う。 ・福祉実習やボランティア活動、地域貢献活動等とおし、生命、自然、地域に対する畏敬の念を高める。 ・警察と連携し、犯罪被害に遭われた家族の講話を行う。	A	●各種講演会や講話、LHR等の計画的かつ効果的な実施により、生徒・職員ともに意識の高揚がはかれた。来年度も継続して実施していきたい。 ▲日々の生活の中で、いかに命の尊さや生きているということを実感させるかが課題である。
いじめの防止	いじめの早期発見、相談体制	◇職員の危機管理意識の高揚。	○生徒の変化に敏感になる。	・いじめ問題対策委員会の開催 ・いじめ防止職員研修の実施	A	●いじめ防止対策委員会の開催や「昼休み巡回回問」の毎月実施により、職員がいじめ防止・抑止意識の定着が図れた。
	いじめをなくす取組	◇いじめ防止関連の各種行事等の実施。	○行事等をとおして、いじめ防止の認識を強くする。	・情報安全・情報モラル講話の実施 ・「『怒』のこころウィーク」の実施 ・「心のアンケート」年3回の実施。	B	●いじめ防止関連の行事を継続的に実施することにより、いじめに対する認識の深まりを感じた。 ▲アンケートを実施することで早期発見早期解決に至ったが、今年度いじめを1件認知した。よって今後に向け問題行動の抑止といじめ防止の対策に努めていきたい。
保健教育の充実	◇保健指導	○健康教育の充実を図る ○健康診断実施後の治療率向上	○健康教育の充実を図る ○健康診断実施後の治療率向上	・生徒を対象とした性教育講演会、薬物乱用防止教育、献血セミナーの実施 ・AED、心配蘇生法についての職員研修の実施 ・治療勧告書の発行 ・未受診の生徒の個別指導	B	●健康教育については、本校の課題に沿ったテーマや内容となるよう計画し、講師と打ち合わせを行うことができた。 ▲治療勧告書を複数回発行し、啓発を行うが、なかなか医療機関へつなぐことができず、治療率は昨年度より下がっている。

保健安全		◇心身の健康問題を抱える生徒への支援	○組織的な支援の取り組み	・保健室入室状況の記録分析 ・スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーター、教育相談担当との生徒情報共有 ・外部の専門機関との連携	B	●今年度、心的要因を背景に保健室を利用した生徒は、保健室利用者の約13%と昨年度とほぼ同じである。多様な特性をもつ生徒に対し、関係者と情報を共有することで、個別に必要な専門機関につなぐことができています。
	環境教育	◇美化週間の取り組み	○学期に1回実施	・美化委員会が主体となり生徒主導型で実施する。	A	●毎学期に環境委員で各教室の整備状況について美化調査を行い、環境整備に対する意識を高めるよう取り組むことができた。
		◇学校環境ISOの取り組み	○地域清掃活動の実施 ○安全・安心な環境整備	・毎月地域清掃活動実施 ・毎学期安全点検を実施	B	●月1回の校内清掃ボランティアや海の日清掃ボランティア等の地域清掃活動への参加者が多く見られた。
	生徒理解	◇生徒理解の充実に向けた取組	○関係部署と連携を密にし、生徒一人一人についての理解を深める取組を行う。	・生徒理解研修の実施 ・教育相談担当職員とスクールカウンセラーによる相談活動の推進	A	●年度当初から気になる生徒についての情報を集約し、職員間で共通理解を図ることによって、それぞれの生徒への支援方法や、今後の方向性を検討することができた。 ●充実したカウンセリングを実施することができ、その後の生徒理解に繋げることができた。
危機管理体制	◇職員の危機対応能力の向上	○具体的な事例を基にした職員研修や事例紹介等により、常に危機管理に対する意識を持たせる。	・予防を視点にした危機管理マニュアルの整備 ・事件、事故、不祥事の実例は、その都度全職員に紹介する。	B	●熊本地震への対応も適切であったし、避難訓練や危機管理の研修も実施した。 ▲危機管理マニュアルの見直しが十分できなかった。 ▲教職員の交通事故等も数件あってるので、ゼロにするよう常々注意喚起する。	
	◇自然災害に対する対策の確立	○避難場所や避難経路、生徒の引き渡し方法等を、生徒・保護者に周知する。	・自然災害を想定した避難訓練の実施 ・保護者向けメールマガジンの定着 ・学校ホームページの活用	A	●熊本地震後に津波発生時の避難場所に全校生徒で避難訓練を実施した。 ●台風や豪雨時の対応で保護者に対するメール送信を数回実施した。	
特別支援教育	生徒理解の充実	◇生徒一人一人の教育的ニーズを把握した支援体制の整備	○年間3回以上生徒理解研修を実施し共通理解を図る。 ○個別の指導計画を学期毎に検討・更新する。	・担任以外に、授業担当者等で、気になる生徒についての情報を収集する。 ・特別支援教育・教育相談委員会を学期毎に実施する。	A	●年度当初から気になる生徒についての情報を提供し、職員間の共通理解を図ることができた。 ●学期毎に生徒理解研修や委員会を実施し、個別の諸計画の作成や評価を行うことができた。 ●気になる生徒についての情報を授業担当者から収集し、その後の個別支援に活用することができた。 ▲個別の諸計画の作成をできるだけ早い時期に行いたい。
	外部との連携	◇連携を通じた個々の生徒の課題の早期把握・対応。	○小・中学校や地域の高校、支援学校と随時情報交換を行う。 ○関係機関にいつでも相談できるような体制づくりを行う。	・地域の研修や情報交換の場に積極的に参加する。 ・関係中学校訪問（入学式前）を実施する。 ・関係機関の専門家に特別支援教育・教育相談委員会への参加を依頼する。	B	●地域のコーディネーター会議に参加し、小中学校や高校間の情報交換を行い、個別支援に活用することができた。 ●入学前に関係中学校訪問を実施し、気になる生徒の情報をまとめ、職員間の共通理解を図ることができた。 ▲特別支援教育・教育相談委員会に専門家を招聘することができなかった。

4 学校関係者評価
平成29年2月9日に開催
①本年度の本校の取組に関してはAの評価が増えたことには概ね肯定的な評価をいただいた。ただ、Cの評価があることに関しては家庭学習の在り方、必要性について保護者にも協力してもらおうことが大切である。
②海外(台湾)修学旅行の実施に関連し、海外から上天草市へ来日する団体との交流へ発展することを期待したい。また、来年度は修学旅行で交流している台湾の学校が本校を訪問したいとの希望があることを伝え、実現に向け期待の意見をいただいた。
③本校の魅力を知らせるために、進路状況や部活動、情報会計科・福祉科等の活動の成果を積極的にPRしてほしい。
④育友会総会の出席率がとても高く評価できる。卒業式や入学式の出席もよいのだろう。学校の活性化のためには保護者の協力が不可欠である。

5 総合評価
総括的に見て、本年度の学校目標は概ね達成された。
①授業は「わかる授業」の工夫・改善が進んでいるが、Bの評価としてはポイントが低い。Cも「家庭学習の充実・時間の増加」を目標としており、考査前の宅習時間調査は実施されるが、その報告で終わっているのが現状である。
②学習活動については、週末課題や日々の課題等に取り組み、生徒一人一人に丁寧な個別支援を行っている。
③生徒指導に関しては、大きな問題もなく、いじめもほぼない、落ち着いた学校生活がここ数年継続しており、生徒たちに「怒のころ」「命の大切さ」など内面の成長が感じられる。規範意識の醸成が図られている。
④進路指導については、就職・進学ともほぼ生徒の希望に沿った結果となり、就職率は昨年引き続き100%であった。進路部と3年部を中心にした全職員の組織としての取組の結果と考えられる。
⑤部活動は計画的・継続的に活動している部が確実に増加しており、ウェイトリフティング部は九州・全国大会にも出場している。さらに練習内容や活動内容の工夫・改善を図ることで、少人数でも活力ある部活動になるよう取り組みたい。
⑥全ての教育活動に生徒会を中心とした、生徒一人一人の頑張りがそこにはあり、キラリ輝く「上天高生」がそこにいた。
⑦特別支援教育における個別の指導計画・支援計画はスモールステップを続け、校外からも評価が高く、コーディネーターと職員(担任、教科担当等)の連携が図られ、SCの活用も確実に実施されている。

6 次年度への課題・改善方策
①「学力向上」と「指導力向上」である。入学してきた生徒たちを最後まで進路保障することが高等学校の最大の務めである。それを実現するためには学力は欠かすことができないものである。今の現状からどれだけ向上させるかが教師の責務と考える。宅習時間を含め学習に対する意欲が不足している中、貪欲に学習することが臨まれる。そのためにも、教師の指導力向上が不可欠と考える。
②相互公開授業や研究授業も実施されているが、その後の検討会までは十分と言えない。それがなければ反省もなく、改善も期待できない。来年度は教務部を中心にPDCAの必要性を理解し、実現するようにしたい。
③授業改善の点から、ICT機器のさらなる整備を図り、先生方が有効活用できるようにする。
④育友会主催行事への保護者の積極的参加のための工夫として、早期の周知に努めるとともに、周知方法の検討を行う。また、総会だけではなく、各学年単位の保護者会も実施し、連携を密にしたい。
⑤生徒へ歯科保健に対する意識向上に関する情報発信を行い、入学説明会・育友会総会などの場で保護者に対しても啓発に取り組み、積極的な歯科受診へつなげる。ルヘルズに日頃から注意を促す。また、職員の交通事故や飲酒運転、体罰等の不祥事防止に向け、職員朝会や研修を利用した取組を計画的に実施したい。